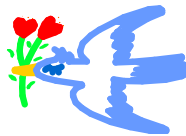


きになる梨情報



第 75 号

令和 7 年 10 月 9 日 県南農林事務所 経営・普及部門(土浦地域農業改良普及センター)

秋季防除、今が適期です！

1 令和 7 年度産の振り返り

土浦地域の定点ほ場（土浦市下坂田）における「幸水」の満開日はが 4 月 17 日で、昨年と同日となりました。着果は良好で、生育初期の肥大は平年並みでしたが、6 月下旬からの少雨や高温の影響により、県内全域で小玉傾向となりました。

2 病害虫の発生状況と対策

（１）炭疽病

梅雨明け後の 8 月以降、「豊水」「恵水」「新高」等で多発生します。葉（葉身及び葉柄）に発生し、果実には発生しません。発病葉はやがて黄化し、早期落葉します。

本年度は、8 月以降に県南地域を中心に県内全域で発生し、一部ほ場では早期落葉がみられています。

（２）黒星病

本年度は 5 月下旬頃から発生が認められました。生育期間中は平年並みからやや少ない発生でした。

9 月下旬現在、葉における発生は平年より少ない状況です。

【防除対策】

① 薬剤防除

重要な防除時期は、秋型病斑の発生が増加する 9 月下旬～10 月、露出したりん片生組織への感染を抑制する 10 月中旬～11 月上旬頃です。薬剤の散布は 9 月下旬～11 月上旬の間に 約 2 週間間隔で 2～3 回程度実施します。特に徒長枝の先端に薬液が十分かかるよう丁寧に行い、薬剤のかかりにくい部分は手散布等により補正散布をします。

また、農薬の使用回数は本年の収穫終了後から翌年の収穫終了までをカウントするので注意してください。

秋季防除に用いる薬剤は、耐性菌リスクの高い QoI 剤の使用は避けます。次ページに薬剤の例を記載していますので参考にしてください。

②落葉処理

次年度の発病を抑制するには、越冬する病原菌の密度を下げる落葉処理が最も効果のある対策です。

落葉の残存量が少ないほど翌春の果そう発病率が低いことが知られ、落葉の残存量は「収集・持ち出し処分」が最も少なく、次いで「粉碎（2 回）」、「中耕すき込み」、「粉碎（1 回）＋中耕すき込み」の順に少ないことが報告されています（富山県）。

【ポイント】

原形をとどめた落葉をほ場に
残さない

なしに登録のある薬剤の例（殺菌剤）

最新登録日：令和7年10月1日

対象 病害	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	使用回数	有効 成分	総使用回数	FRAC コード
炭疽病 黒星病 輪紋病	オキシラン水和剤	500 倍	収穫3日 前まで	9回以内	キャプタン	9回以内	M04
					有機銅	12回以内（但し、塗布は3回以内、散布は9回以内）	M01
炭疽病 黒星病 輪紋病	デランフロアブル	1000 倍	収穫60 日前まで	4回以内	ジチアノ	5回以内	M09
炭疽病 黒星病 輪紋病	オーソサイド水和剤 80	800 倍	収穫3日 前まで	9回以内	キャプタン	9回以内	M04
黒星病 炭疽病 輪紋病	フルーツガード WDG	1000 倍	収穫3日 前まで	3回以内	キャプタン	9回以内	M04
					ペンチオピラト	3回以内	7
炭疽病 黒星病	チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500 倍	収穫30 日前まで	5回以内	チラム	5回以内（但し、休眠期は1回以内）	M03

※オキシラン水和剤、オーソサイド水和剤 80、フルーツガード WDG は同一成分（キャプタン）を含むため、総使用回数に注意してください。

（3）カメムシ類

本年度生育期間中のカメムシ類の発生は平年と比べ少なかったですが、8月下旬頃から県内全域で発生が多くみられています。収穫中の果実がある園で薬剤防除を実施する際は、収穫前日数等に十分注意が必要です。

なし（無袋栽培）に登録のある薬剤の例（殺虫剤）

最新登録日：令和7年10月1日

対象 害虫	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	使用回数	有効 成分	総使用回数	IRAC コード
カメムシ類 ハマキムシ類	スミチオン水和剤 40	1000 倍	収穫21 日前まで	6回以内	MEP	6回以内	1B

※秋季防除の際は、生育期に使用する薬剤（薬剤の使用回数等）を考慮して、薬剤を選択します。

○来シーズンに向けて、秋季の病虫害防除を徹底してください。

資料の作成にあたっては、農薬使用基準の内容について最新の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。